

2010. 5

NO. 20

LETTER

目 次

- ◆アースガーデンおひさまプロジェクトin美山
第3回スタディツアー“わたし流・循環型生活”に参加して
収支報告 (大西 啓子) . . . 2
- ◆おおやけエコ発電所プロジェクト
大宅保育園におひさま発電所ができました！
収支報告 (大西 啓子)
大平印刷労働組合の皆様からご寄附いただきました！ (北川 井子) . . . 3
- ◆いま太陽光発電はどうなっているの？ (林 敏秋) . . . 4
- ◆京都御池中学校環境学習と寄付金付き学生服 (大西 啓子) . . . 5
- ◆京グリーン電力制度の2009年度の取り組みについて
ご協力ありがとうございました！ (木村 啓二)
(深川 佳子) . . . 6
- ◆認定申請によせて (加川 祐介) . . . 7



特定非営利活動法人
きょうとグリーンファンド



2009年9月に点灯式を終えた美山町のアースガーデンで、これまで3回のスタディツアーが開催されました。

- ① 「都会で農的暮らし」のあゆめ
2009年10月24日(土)
- ② 小さな自給ガーデンの作り方
2010年1月23日(土)
- ③ わたし流・循環型生活
2010年3月27日(土)

都市ではお金さえ出せば、あらゆる食品が手に入りますが、様々な問題も存在します。都市で農的暮らしをすることの意味を考え、その具体的な方法を学びました

自給ガーデンは農村だけでなく、都市でもできます。小さな庭やベランダなどの空間を活用して、少量多品種の作物を自給する方法、輪作や土壌の維持管理、コンパニオンプラントについての紹介がありました。

ごみを減らしておいしい野菜を手に入れるワザ”ミミズコンポスト”、そのつくり方と付き合い方を実践。あなたも循環型社会の担い手になります。

第3回 “わたし流・循環型生活” に参加して

「やっかいな”生ごみ”も、もとは食べ物。土に還せば、野菜になってまた食べものになるはず。」「ミミズコンポスト」は、ミミズをパートナーにごみを減らして堆肥づくり、おいしい野菜を手に入れるワザのひとつと言えます。実習はまず、プラスチックの衣装ケースに電動ドリルで穴を開けることから始まりました。参加者はそれぞれ穴あけを体験。はじめはドリルの先が表面を滑ってなかなかでしたが、すぽっと最後に穴がいたときはちょっとした達成感！その穴にハエが入り込まないように布を貼ってと、いちいちもともな作業が続きます。その中にミミズが居心地のよいように、細く切った新聞紙、ちぎったダンボール、腐葉土、ミズゴケ、バーク、草や土を入れて、しっとりふかふかの「ミミズベッド」をつくります。この中にミミズを住まわせて、生ごみを食べてもらうという仕掛けなんですね。「へえー、そんじょそこのミミズじゃだめなんだ」「たべもの=生ごみの入れ方にもコツ、ミミズ君たちへの配慮が必要なんですね」「夏や冬はそのままだは無理、寒いも暑いもやっぱり苦手なんやね」とにかくミミズ君たちの「糞」は極上の有機肥料なので、いつも機嫌よくむしゃむしゃ？と生ごみを食べてもらい、ひたすら「糞」を落としてもらおう、というわけです。

おいしい野菜はまず土作りから、と夫が励んでいた家庭菜園、「野菜作らんと土ばっかり作ってるやんか」と冷やかしていた頃を思い出しました。でも、太陽と水があってもほこほこの土がないといい作物は出来ませ

ん。その土の中にはたくさんの微生物やミミズたち。地元の素材を使った、おいしいランチを味わいながら大いなる自然の循環に思いを馳せた一日でした。

次回は、
6月26日(土)
自然エネルギーのある暮らし方
14:00~16:00
どうぞお楽しみに！

(きょうとグリーンファンド 大西 啓子)



アースガーデンおひさまプロジェクト in 美山 収支報告 2010年3月

収入 / 借入の部		支出の部	
「アースガーデンおひさまプロジェクト」寄附金 (31件)	125,000	設備設置費	5,058,000
きょうとグリーンファンド「おひさま基金」	855,700	印刷製本費	400,000
		記録費	62,000
郵便事業株式会社年賀寄附金	2,500,000	環境学習・点灯式等運営費	76,000
アースガーデン負担金	1,000,000	コーディネート委託費	317,000
スタディツアー参加費	39,000	通信運搬費	29,000
プリウスプラン寄附金	600	旅費交通費	20,000
借入金 「アースガーデンおひさまプロジェクト」協力金 (19件)	1,900,000	事務費	280,000
		事務諸経費	177,000
合計	6,419,000	合計	6,419,000

(1,000円以下原則四捨五入)

大宅保育園に おひさま発電所が できました!

きょうとグリーンファンドが関わってできた14ヶ所目のおひさま発電所です。世界でもめずらしいミドリセンチコガネが、生息していると言われる牛尾山が間近に見える保育園です。理事長は、今からネイチャーゲームや自然観察会を開くのを楽しみにしています。

大宅保育園は以前から環境への関心を持って、廃食油の回収に始まって手直し発電のおもちゃ、植物を育てることなどさまざまに取り組んでおられました。園舎建て替えのタイミングなどもあり、今回は近接する児童館の屋上に太陽光パネルが並び、発電表示盤は保育園の玄関に設置するという変則的な形になっていますが、保育園の子どもたちはもちろん、卒園して児童館に通う子どもたちにも身近な存在となっていくでしょう。すぐ南にある大宅小学校とも連携が進み、連続性のあるトータルな環境学習のプログラム実施に期待がもたれます。大宅保育園がおひさま発電所になったことをきっかけに、きょうとグリーンファンドも環境学習のプログラム内容に一層力を入れていきたいと思います。

(きょうとグリーンファンド 大西啓子)



おおやけエコ発電所プロジェクト 収支報告

2010年4月

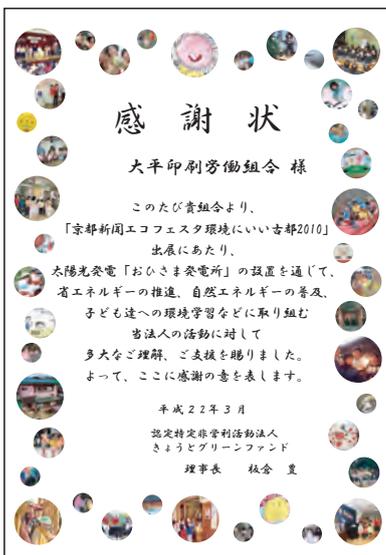
収入の部		支出の部	
「おおやけエコ発電所プロジェクト」寄附金(65件)	411,000	設備設置費	9,660,000
きょうとグリーンファンド「おひさま基金」	496,000	印刷製本費	496,000
		記録費	61,000
関西グリーン電力基金助成金	597,000	環境学習・点灯式等運営費	50,000
		連絡調整費	200,000
地域新工ネ導入促進事業助成金	4,000,000	通信運搬費	28,000
		旅費交通費	35,000
大宅保育園負担金	5,500,000	事務費	299,000
		事務諸経費	175,000
合計	11,004,000	合計	11,004,000

※きょうとグリーンファンド「おひさま基金」には、京グリーン電力運営協議会からの寄附金216,000円が含まれます。(1,000円以下原則四捨五入)

大平印刷労働組合の皆様から ご寄附をいただきました!

大平印刷株式会社は、「人と地球にやさしい印刷物づくり」=ユニバーサルプリンティング」を推進されています。また世界の子どもにワクチンを購入するための寄付金を含んだ印刷用紙『ワクチンコート』『ワクチンマットコート』を取り扱うなど、社会貢献に熱心に取り組んでおられます。この度、「京都新聞エコフェスタ環境にいい京都2010」でのフリーマーケットの収益金をきょうとグリーンファンドのおひさま基金にご寄附いただきました。いただいたご寄附(37,581円)は2010年度のおひさまプロジェクトに活かされます。ご協力ありがとうございました。

(きょうとグリーンファンド 北川 井子)



いま太陽光発電はどうなっているの？

林 敏 秋 (ワーカーズコープエコテック)

太陽光発電業界が活性化している。確かに太陽電池に関する関心は高まっているし、販売額も伸びている。国の補助金の窓口をしている太陽光発電普及拡大センター（J-PEC）によると09年度（09年4月～10年3月）の補助金受理件数は144,601件のぼるといふ。補助金が復活する08年度までは年間5万件前後だったので2倍以上の伸びを示している。実際、国内メーカーの製品は注文しても2ヶ月近く待たなければ手に入らない状態だ。

補助金も10年度住宅用401億円、地域新エネルギー導入支援事業など法人向け345億円の予算が国会を通過した。住宅用は、補助金額7万円/kWでシステム価格が65万円/kW以下のものが補助対象だ。09年度から5万円下がった。価格を下げようという国の意向が表れている。地方自治体も補助金を出すところが増えている。京都府、京都市、宇治市、亀岡市、久御山町、宇治田原町などその数は増加傾向にある。

買取価格も昨年11月1日以降、10年度は10kW以下は48円/kWhで10年間の買取が決まっている。更に全量買取制度の実施に向け、各地でタウンミーティングが開かれ、住宅用太陽光発電は42円/kWhという買取価格が提案されている。

太陽光発電を設置するにはハードルがずいぶん低くなり、販売業者が売り込む段階から消費者が買い求める段階に移行しはじめている。それに伴って様々な問題も浮き上がりだしている。太陽光発電は殆どが訪問販売だ。しかもオール電化との併売が常識となっている。中にはオール電化製品をつけないと太陽光発電も設置できないと勘違いしている人もいる。全くの誤解である。オール電化は、原発などをベース電源としているために夜間に電気が余っているの、その余剰の電気を売りたい電力会社の一時的な販売戦略でしかない。太陽光発電とは別物だ。話を元に戻すとその訪

問販売などの苦情が増加しだしている。施工不良の苦情も増えている。業界が活性化してきたので猫も杓子も太陽光発電なのだ。オール電化に圧迫されていた大阪ガスも「軍門」に下って太陽光発電を大々的に売らだした。経験が1、2年の販売施工業者が急増してきている。明らかに知識不足、経験不足である。メーカーの拡大戦略も一因だ。業界が拡大する時にはよく見られる「質より量」の傾向が強い。製造販売メーカーも中国や韓国製を含め20社以上登録されている。太陽光発電業界は、コスト競争をふくめて一種の「戦国時代」に入りつつある。

拡大、流動化する時代に消費者はどのような視点で太陽光発電に接すれば良いのか。一言で言えば事前によく学習することだ。NPOなどが開く学習会などに出かけて知識を得てほしい。複数社の説明も聞くべきだ。その中で信頼できる実績のある販売施工業者をじっくり選ぶしかない。モニター募集と宣伝したり、契約を畳み掛ける業者は要注意だ。

設置後もメンテナンスフリーと謳ってはいるもののトラブルもある。15年間関わってきた経験から言えばどのメーカーも故障や不良品が出ている。パワーコンディショナーのトラブルは別として、太陽電池自体の出力低下を発見するにはこまめにデータを取るしか手はない。1ヶ月に1回はデータを取ることだ。データを取らない設置者には出力低下も解らない。

いずれにしても設置者はまず自分で監視するしかない。太陽光発電所ネットワークなどのNPOに参加するのも良いが、自分で学習して自立した賢い消費者になることが重要だ。高い買い物なのでそれぐらいの関心を持ってもらいたいというのが私の願いである。



京都御池中学校環境学習と寄附金付き学生服

2009年度後半のプロジェクトのキーワードは、標準服（学生服）、京都御池中学校、上乘せ寄附、タグ、(有)村田堂、きょうとグリーンファンド、環境学習…。チラシにあるような仕組みが出来上がり、スタートしました。御池中学校の新入生は今頃、寄附金付きの学生服を着て、中学校に通っているはず。新入生の学生服にはタグ、今回の取り組みを紹介するこのチラシ、アンケートはがきを添えました。

昨年11月には環境学習のプログラムを実施しました。内容は「地球温暖化の現状と自然エネルギー」をテーマとした講義と学校内の設備見学です。御池中学校には2.8kWの太陽光発電と発電モニター、風力発電機、雨水利用の地下プールなどの設備が導入されています。建物自体は中学校、小学校、保育園、デイケアセンター、店舗などが一体となった複合施設となっており、委託された管理会社が管理室で集中管理する形となっていました。設備の規模や設置の状況からみて、この施設の建設時には環境学習に活用できるよう意図されたものと思われます。この設備を活かした環境教育は、必ずしも充分とは言えないという先生方のお話がありました。「正直言えば、余裕がない」というところでしょうか。10年もたないうちに社会に出る中学生の環境教育を進めていくにあたって、きょうとグリーンファンドも何かお手伝いが出来ないかと、この環境学習が実現したわけです。少なくとも第一歩は踏み出せたので、今後はこのきっかけをつなげていくことが大切と考えています。

学校現場だけに任せず、地域の人たちやNPOなどが協力していく仕組みを立ち上げるためにも貴重な第一歩となるよう、リアリティのある次の一手を打ちたいものです。

(有)村田堂 長屋博久さん

今回の取組は、学校にある素晴らしい資源を私たち地域の企業や諸団体が教育現場で活用いただくきっかけとなりました。また『寄附』は教育現場や社会を動かす大きな手段となります。今後も学校、地域、諸団体、企業が連携した取組を『地球温暖化』をテーマとしてひろげて行きたいと思っています。

* (有)村田堂と鳴村呉服店からいただいたご寄附は、2010年度のおひさまプロジェクトに活かされる予定です。

(きょうとグリーンファンド 大西 啓子)

みんなで低炭素社会をつくるために！

学生服の売り上げの一部は「おひさまプロジェクト」に寄付されます。

※おひさまプロジェクトとは、市民参加型で自然エネルギー普及を進める取組です。



学生服を買う → エコアクションへの第一歩



学校、きょうとグリーンファンド、販売店等が協力して、太陽光発電を広げる仕組み（おひさまプロジェクト）を新たに立ち上げます。

販売店は学生服の売り上げの一部を認定NP0法人きょうとグリーンファンドの「おひさま基金」に寄付します。

「おひさま基金」は、保育園などの公共施設に太陽光発電を設置する費用に使われます。

きょうとグリーンファンドは、寄附金付き学生服を購入した学校に、環境教育のプログラムを提供します。

認定NP0法人きょうとグリーンファンド
〒600-8104 京都市下京区五条通高倉西入
万寿寺町143 いづつビル6階
TEL: 075-352-9150

平成21年度 京エコロジーセンター環境保全助成事業

みやこ 京グリーン電力制度の2009年度の取り組みについて

木村 啓二 (京グリーン電力運営協議会)

京(みやこ)グリーン電力運営協議会は、地域参加型の自然エネルギー普及(京グリーン電力制度)に取り組んでいる組織です。本協議会は、京のアジェンダ21フォーラムから京グリーン電力制度を受け継ぎ、2009年10月に発足しました。

京都には、きょうとグリーンファンドのおひさま発電所をはじめとして、保育園等の施設に太陽光発電システムが設置されています。ここで発電された電気は、CO2を出さない環境に良い電気ですが、自家消費分については優遇買取の対象になっていません。

このため、せっかく発電しても設置場所で使った電力分は社会的な評価の対象になっていません。そこで、この部分の「CO2を排出せずに発電した電気」という価値を地元の事業者さんやイベント主催者など購入していただいています。購入団体には、「京グリーン電力証書」を発行し、「京グリーン電力マーク」の利用権を提供しています。そして、この売上金の一部は、新たな太陽光発電など自然エネルギー普及のために使うこととしています。

2009年度は、20の企業あるいはイベント主催者に計4万3200kWh相当の京グリーン電力を購入していただきました。京グリーン電力制度は、二条城の桜ライトアップや嵐山・東山花灯路などで主にご利用いた

だきました。また企業では、エコロタクシーで有名な株式会社エコロ21などがご購入されました。また、NPO法人南山城村茶ECO(ちゃえこ)プロジェクトでは、宇治茶の生産に使われる電力の一部を京グリーン電力でまかない、環境にやさしい宇治茶として売り出しています。

(右写真参照)

このようにさまざまな団体にご購入いただいたおかげで、2009年度は数十万円の売り上げを上げることができました。本協議

会は、この売上金の約半額(21万6000円)をきょうとグリーンファンドに寄附をすることとしました。この寄附金が、きょうとグリーンファンドのおひさま発電所づくりの取組に活かされ、地域でさらなる自然エネルギー普及につながることを期待しています。京グリーン電力制度は、京都の事業者さんたちの協力を得て、地域の環境の取組を応援し、さらに地域で新しい自然エネルギー発電所づくりを支援しています。



お問い合わせ

みやこ

京グリーン電力運営協議会事務局

〒600-8085 京都市下京区葛籠屋町515-1 3F ひのでやエコライフ研究所内

TEL FAX 075- 708-8153 Mail office@miyako-gpc.com URL <http://www.miyako-gpc.com/>



ご協力ありがとうございました！



これは、きょうとグリーンファンドの手作りの募金箱です。協力してくださっているところに置いてあります。先日、京エコロジーセンターに置いてもらっていた募金箱には、1,996円入っていました。

ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

みなさまのご協力で、きょうとグリーンファンドは成りたっています。今後ともよろしく願います。

(きょうとグリーンファンド 深川 佳子)

認定申請によせて

加川 祐介

全国的に見てもまだまだ数少ない認定NPO法人。今回の認定申請作業に関われたことは、私にとってたいへん貴重な体験となりました。

私は主に国税庁への提出書類作成をお手伝いさせていただいたわけですが、きょうとグリーンファンドとして二度目の申請とはいえ、法令の改正もあり、当初はまさに手探り状態でした。事務局のみなさんと一緒に、財務諸表や寄附者名簿、前回申請時の提出書類など様々な書類とにらめっこしつつ、なんとか作業を進めていくことができました。多くの方々にご助力いただいたおかげで、国税庁からの認定を受けることができ、微力ながらも認定申請に関わった者として、本当にうれしく思っています。

申請書類を作成する過程では、日常的な事務処理の重要性を改めて感じました。入出金管理をはじめとした会計的な部分はもちろん、契約書をきっちり整理・保管したり、寄附者の名簿を作成したり、そういったことがしっかりできていないと、申請書類は作成できません。仮に書類は作成できたとしても国税庁職員による実地調査への対応は困難になります。きょうとグリーンファンドの場合は、そうした日々の事務処理がしっかりとなされていたからこそ、時間はかかったものの書類作成から実地調査を経て、最終的に認定を受けることができたのだと実感しています。

認定NPO法人制度は、税制上の優遇措置に関連しており、制度の悪用を防ぐためにも、認定を受ける法人がしっかりとした情報開示を求めら

れるのは当然のことですが、申請時の提出書類については、もう少し簡略化が図られてもよいのではと感じました。

ただ、手間がかかる厳格な認定手続きには良い面もあり、手続きを進めるなかで自然とこれまでの活動や事業運営についての見直しができ、様々な改善点を発見することにもつながります。いずれにせよ今回の認定をひとつのきっかけにして、きょうとグリーンファンドを起点としたポジティブな循環が社会に広がっていくことを心より願っています。



2010年度きょうとグリーンファンド 総会のお知らせ

日時 5月17日(月)午後6時30分～
会場 ひと・まち交流館 会議室

今年は例年のように、総会後の学習会は予定していません。2000年にきょうとグリーンファンドが発足、多くの皆さんに支えられながら、いつの間にか10年もたってしまいました。

「10周年をどうしよう」「何かしたほうが・・・」といった声がちらほら。

支えてくださっている会員のみなさま、ご意見・ご希望がございましたらお聞かせ下さい。

編集後記

- ・19号のぐりふあんレター発行からだいぶ間が開いてしまいました。何やものすごく忙しかったのは、今考えるに、認定の再申請が影響してる、昨年の総会以後すぐに準備したのになあ、というのが「言い訳」です。ただ、ただ良くない、と反省しております。(K.O)
- ・このごろの気候に振りまわされている感じです。みなさんは、いかがですか・・・？ (F.K)
- ・暑かったり、寒かったり・・・気候変動を肌で感じるこのごろです。次号はひそかにリニューアルを思案中、みなさま、何かいいアイデアをお寄せくださいね。(S.k)

□ きょうとグリーンファンドのメンバーになるには？

I. まず、会員の種類をお選びください。

(入会申込書は事務局まで)

正 会 員	10,000円/年	催し物のご案内、会報(年2回程度)をお送りします。 ★「NPO法人社員」として会の運営に参加することができます。
賛 助 会 員	6,000円/年	催し物のご案内、会報(年2回程度)をお送りします。
法人・団体会員	10,000円/年	催し物のご案内、会報(年2回程度)をお送りします。

II. 次に、払込みの方法をお選びください。

郵便振替 (年払い)	☆下の口座に直接振り込んでください。(年1回) [郵便振替口座 00930-6-157817 きょうとグリーンファンド]
郵便局からの 自動払い (年払い)	◆ 正 会 員 …年1回10,000円(入会月)が引き落とされます。 ◆ 賛 助 会 員 …年1回 6,000円(入会月)が引き落とされます。 ◆ 法人・団体会員 …年1回10,000円(入会月)が引き落とされます。
郵便局からの 自動払い (月払い)	◆ 正 会 員 …年1回4,500円(入会月)と、月々500円が引き落とされます。 ◆ 賛 助 会 員 …月々500円が引き落とされます。

★ろうきん口座からの自動払いの方法もあります。この場合手数料はかかりません。詳しくは事務局にお問い合わせください。

《 ぐりふぁん日誌 》

2009年

- 9/30 企業寄附研究会
- 10/01 JST「10歳までの環境学習プログラム素案作り」
- 10/05 京グリーン電力運営協議会
- 10/14 ト外外ス京都 助げ ちについて協議
- 10/15 環境学習 大宮保育園
JST「10歳までの環境学習プログラム素案作り」
- 10/17 環境学習 陵ヶ岡保育園 大宮保育園 向島保育園
- 10/19 京都新聞取材
- 10/22 環境学習 つくし保育園 企業寄附研究会
- 10/24 美山アースガーデン・スタディーツアー
- 10/29 JST「10歳までの環境学習プログラム素案作り」
- 11/04 京都御池中学校環境学習について打合せ
- 11/06 環境学習 大宮保育園
- 11/07 環境学習 妙林苑
おひさま発電説明会打合せ 大宅保育園
- 11/09 京グリーン電力運営協議会
- 11/10 環境学習 つくし保育園
- 11/17 御池中学校環境学習について打合せ
- 11/18 腹話術内容検討
- 11/19 JST「10歳までの環境学習プログラム素案作り」
- 11/21 環境学習 妙林苑
- 11/25 京都市ソーラーのまちづくり推進協議会
- 11/26 環境学習 清心保育園
- 11/27 環境学習 京都御池中学校
- 12/11 エコポイント交換事業者環境寄附説明会
- 12/14 京グリーン電力運営協議会
- 12/17 JST「10歳までの環境学習プログラム素案作り」

2010年

- 1/07 JST「10歳までの環境学習プログラム素案作り」
- 1/09 第72回理事会
- 1/14 企業寄附研究会
- 1/15 大阪国税局 調査 環境学習 向島保育園
- 1/18 京グリーン電力運営協議会
- 1/19 大宅保育園 打合せ
- 1/21 JST「10歳までの環境学習プログラム素案作り」
- 1/23 大宅保育園点灯式・太陽光発電見学会
- 1/26 大阪国税局 調査 環境学習 かがやき保育園
- 1/30 エコセン環境教育ミーティングで事例発表
- 2/04 JST「10歳までの環境学習プログラム素案作り」
- 2/08 競争入札参加資格、登録延長届提出
- 2/15 環境学習 妙林苑
- 2/24 京グリーン電力運営協議会発足記念シンポジウム
- 2/25 JST「10歳までの環境学習プログラム素案作り」
- 2/27 第73回理事会
- 3/01 北区のぞみ保育園訪問説明
- 3/04 京都御池中学校標準服寄付システムについて協議
木村税理士事務所にて認定申請内容について協議
- 3/05 大阪国税局にて面談
- 3/09 JST「10歳までの環境学習プログラム素案作り」
- 3/11 第74回理事会
- 3/21 エコセン事業報告会で報告
- 3/24 地域公共人材機構成果発表会参加
- 3/26 大平印刷労働組合来所、寄附
京グリーン電力運営協議会
- 3/27 アースガーデン・スタディーツアー
- 3/30 京都グリーン購入ネットワーク幹事会
- 3/31 認定NPO法人の認定通知が届く

★2010年5月1日付で国税庁から認定NPO法人として認定されました。認定NPO法人への寄附は、税法上の特別措置の対象になります。

特定非営利活動法人(認定NPO法人)きょうとグリーンファンド



事務局 〒600-8104
 京都市下京区五条高倉西入る万寿寺町143
 いづつビル6F (火～金 13:00～17:00)
 TEL/FAX 075-352-9150
 E-mail info@kyoto-gf.org
 ホームページ http://www.kyoto-gf.org

